防災―亡き妻が遺したもの

5th chapter　今までのあらすじ&おさらい

	第一回	第二回
あらすじ	東海大震災が既に起こってしまった仮想世界の物語。震災ボランティアの時三は、名古屋に住む孫娘の紗耶香の元に身を寄せることになった。孫娘の部屋の惨状を目の当たりにした時三は部屋の大改造を志すが、紗耶香は当然のごとく激怒。しかしそんな彼女をあざ笑うかのように時三は華麗な避難テクニックで紗耶香の猛攻をいなすのであった…。	今は亡き妻の墓標を訪れようとした時三は、耄碌(もうろく)していたせいか名古屋市街に出てしまう。しかしそこはただでは転ばない時三、これ幸いにと名古屋めしを制覇することを思いつく。今話題の料理を貪り尽くす時三だが、手持ちの資金が非常に貧弱な事に後になって気が付く。絶体絶命の彼は、避難テクニックを駆使してその場を逃れようとするが…。　*注意:食い逃げはしてはいけません！*
心得	**自宅での事前準備編** ●余分なゴミ・家具を整理整頓する。 ●避難袋を持ち運びやすい場所に準備する。 **自宅からの避難編** ●慌てて外に飛び出さないようにする。 ●ガス・ブレーカーは切り、火事を防ぐ。	**市街地での避難編** ●責任者の指示に従って落ち着いて行動する。 ●人の集中する場所にむやみに近づかない。 **大学での避難編** ●先生の指示に従って落ち着いて行動する。 ●天井からの落下物や、設備の転倒に注意する。

6th chapter　避難生活編

結局食い逃げは成功せず、時三の身元引受人である紗耶香の元には大量の請求書が送られることとなった。そして憤怒する紗耶香の一撃によって、ついに時三は家から叩き出されてしまった。骨肉の争いの結果こうして家を追われることになった時三は、ひとまず白川公園に身を寄せ、再起を窺(うかが)うことにした･･･。

時三(65)
　ついに紗耶香家を追い出されることになった哀れな老人。過酷な野外生活に、彼は耐えられるのか？
がんばれ時三、負けるな時三！

ロドリゲス(年齢不詳)
　サバイバルの達人。同じ境遇にある時三とは確固たる絆で結ばれており、その豊富な知識と的確なアドヴァイスで幾度となく彼の窮地を救う。

理学部のシバです。自宅生で愛知県豊橋市在住。毎日愛知県を縦断しています…遠い！（シバ）

一日目

わしはもうだめじゃ…。
手持ちの食糧はとうに尽きてしまったわい。こうなっては自生している雑草でも食すほか無いかのう。じゃが食ったら食ったで腹痛も心配じゃ…。

そうそう、何より心配なのは水じゃのう。何も喰わなくてもある程度は生き延びれる気がするが、飲料水だけは確保せねばまずいのう。とはいえ、川の水は汚いし、どうしたものかのう。雨水でも溜めるとするか・・・。

問題は山積しておるが、とりあえず、急ごしらえでダンボールハウスを造ったぞ。なかなか立派なものじゃろう。こう見えても頑丈で、寒さも風もある程度までなら防げるぞ。

ううう。じゃがやはり夜の底冷えは老体には堪える。嗚呼、暖かい毛布が欲しい…

この状況で生き延びろ！

―よくわかるロドリゲス講座　極限サバイバル編

どうも、ロドリゲスです。
避難生活初期に考えなければならないことは、まず自分の体調を管理するということです。
避難をしなければならないほどの激甚に見舞われてしまった場合、かなりの確率で避難生活は長期化します。もし病気にかかってしまったら、その間ずっと病気に苦しむことになりますし、もし医薬品の支援が滞れば、命に関わることになりかねません。その意味において、**体調管理は食事等よりも優先して考慮すべきこと**といえるでしょう。
そこで時三殿には、いくらおなかが空いても拾い食いはしてはいけないと忠告しておきました。変なものを摂取して体をこわしてしまっては体力が必要な避難生活を乗り切れません。２，３日の辛抱です。**日本なら、少し待てば支援が必ず来ます。**
また、時三殿が寒さに震えていらっしゃったので、簡易毛布を作って差し上げました。これは、黒いポリ袋を体に巻き付けるという簡素なものですが、結構効果があります。新聞紙などでも代用可能でしょう。とりあえず、**身体と外気の間に少しでも多く空気の層を作ることが大切**です。震災時には多くの人が着の身着のままで来るので寒さ対策は急務です。

こんにちは、ついに2年生になった平野です。ここではひらのんなどと呼ばれております。嗚呼、もう2年かぁ…はええなぁ…この1年間は合唱と学生委員会活動に全精力を費やしてきました。あ、あとテスト期間中には勉強も少なからずしました。趣味は魚関係のこと全般です。(ひらのん)

三日目

わしはもうだめじゃ……

ようやく配給車が来て食料にありつけたのじゃが、冷たくて量も少ない…。味付けも単調で、グルメなわしにはしんどいわい…。じゃが、せっかく一時間も配給の列に並び続けた末の戦利品じゃ。食欲はないが、我慢してでも食べねば…。

我慢と言えば、もうかれこれ２日も用を足しておらぬ。いくら老人用おむつに頼っているとはいえ、限界が近いわい。水道は止まっておるから公園に備え付けのトイレは使えぬし、簡易トイレの長蛇の列にこれ以上並ぶのも御免である。かといってその辺りでするのは不衛生じゃし、衛生に配慮して土中に埋めるのであればかなり体力を消耗するであろう。ううむ、どうしたものか。

…やはり誰も見ていない道端でちょちょいと失敬するしか道はないのか…！

この状況で生き延びろ！

―よくわかるロドリゲス講座　絶体絶命編

どうも、ロドリゲスです。

支援物資が被災地に届くのは割合迅速に行われますが、そこからさらに被災時の人々に分配されるまではけっこう時間がかかります。その象徴とも言えるのが、炊き出しの列でしょう。

列に並ぶこと自体が重労働です。体力のない人には特に大変でしょう。そしてようやく食料を手にしたとしても、量が十分ではなかったり、逆に食欲が全然湧かず食べきれなかったりと、満足を得られるとは限りません。それでも、**もし震災が起これば、誰もが列に並ばざるを得ない**のです。

また、この列に並ぶ行為は、何も食事に限ったものではありません。水、トイレ、預金引き出し…震災時には様々なサービスに人が集中します。その分、**秩序だった行動が求められる**といえるでしょう。

時三殿も並ぶのを今はいやがっていますが、おいおいこのようなことにも慣れていくことでしょう。

そんな彼のためにロドリゲス特製簡易新聞紙トイレを作っておきました。これは、新聞紙を折って箱状にしたものです。道端を汚すなどもってのほか。ちゃんと自分の出したものは自分で始末しましょう。

気付けば、いつの間にか学生生活もあと１年となってしまった理学部４年のnonです。月日がたつのは早いものですね。今年は旅に出てみようかなぁ…と画策中。ハンマー片手に田舎道を歩く怪しい人がいたらそれは私かもしれませんwww（のん）

この状況で生き延びろ！

―よくわかるロドリゲス講座　もう無理編

どうも、ロドリゲスです。

震災からある程度経つと、物質的にはある程度不自由しなくなりますし、精神的にも震災当初の緊迫感からすれば大分落ち着いて来るかと思います。すると、気になり始めるのが「**避難生活は集団生活である**」ということです。

避難所には様々な人がやってきます。乳児を連れた人、タバコが片時も手放せない人、体が不自由な人、ペットをつれてくる人…。皆生活習慣が違う人たちばかりです。そのような環境の中で必要なのは、**お互いに妥協しあって助け合わなければならないという、「寛容と忍耐の精神」**です。

時三殿は癇癪（かんしゃく）持ちなくせに繊細なところがあるので、処方箋が難しかったです。しかしこういう問題は概して周囲の人間と交流することで解決します。つまり、**見ず知らずの他人に悩まされるのは耐え難いとしても、見知った人物なら許せる**ということです。震災時という非日常であるからこそ、人の情けが身にしみることでしょう。

しかし、人情だけではどうにもならないものもあります。気温や天候は人の力ではどうにもならない部分もあります。同じ境遇にあるもの同士、**助け合って自然の猛威に耐える**しかありません。

次回は、復興生活編です。

文責：ひでっちょ

経済学部経営学科４年のだつと申します。アルファベット表記はDatzです。ある日の夕方5時頃だったと思いますが、僕がMe ～ diaの記事を書いていて文章を打ち間違えました。その時誰かが「ごじだつじ！」と指摘したため、だつというペンネームになりました(という噂があります)。それ以来、誤字脱字には特に気をつけています。(だつ)